



こんにちは

村田 けい子

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

移動事務所 090-9144-

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267 (56) 2868

2019.10.17

No222



13日から始まった給水活動、16日には安全が確認され、水道水が飲めるようになった。



給水に並ぶ住民 (13日 西塩沢)



ハゼ木が強風で倒れた。水を吸った稲わらは重い。泥に使った稲束が流されたところも多い。(町内各所)

風であおられ白壁が剥離、そこから雨水が降り注ぎ、押し入れは水浸し。(西塩沢)



用水路にたまった土砂を取り除き、懸命の復旧活動をする建設課の職員のみなさん。(温井配水池)

今回は立科町でも断水しました。「温井配水池ではすぐ横を流れる用水路が、斜面の崩落によりふさがってあふれ、濁った水が集水管を通して水源地に浸透し濁り水となったのでは」とのことです。濁り水が出たことで水道の断水が宣言されました。

お困りごと・ご要望などお寄せ下さい。 090-9144-8534 村田携帯

10月12日(土)から風雨共に強まり、猛烈な風や豪雨で、災害の少ない立科町でも、停電・断水・土砂崩れ・のり面崩落・河川の氾濫・床上浸水など、近年まれにも見る大きな被害となりました。町内各地にその爪痕を残しています。

町職員も連休返上で、日夜を分かたず、避難所の設置や運営、避難誘導、安否の確認、毛布や非常食・給水の手配、倒木や土砂の処理など、町長先頭に一丸となって対応していました。連休明けにも住民からの訴えの電話対応、建設課や農林課の職員は町内を回って、土砂の片づけや道路の復旧、田や畑の被災状況、のり面の崩落などの状況を確認し住民からの訴えに対応しています。

被害にあわれた皆さんは、区長などに被害を届け、被害の実相を伝えてください。

また私にご連絡をいただければ直ぐに駆けつけます。



大風で落下したリンゴ多数 (十八塚)



道路の陥没 (古町)

伐採されただけで植林されていけない山。根を張る木々の植林が必要ではないでしょうか。

収穫間際のリンゴが多数落果。また果実同士がぶつかり合っただけで出荷できなくなったり傷んでしまったとのこと。さらに強風にあおられて葉柄部分が傷んで、葉摘みでちよっと触ったくらいでも落ちてしまうとのこと。大変な痛手です。



強風でトタンが捲(めく)れた屋根(町区)



ポストの上に何やら栗の实のようなものが並んでいます。近寄ってみるとちょっと違うよう

です。坊主頭の枳の実。珍しいものです。栗のようですが、苦いのです。以前私は、食べてみようとして少し炭酸を入れてゆでてみましたが、苦くてあきらめたことがあります。ネットなどで検索すると、木の灰などに1日入れてあく抜きするなど手間がかかるようです。でも昔は枳餅などで食べていたようです。

台風19号で被害にあわれた皆さんに心よりお見舞い申し上げます。

くりくり坊主

今週のパチリ

<芦田川周辺に大きな被害が>



泥をかぶった稲。収穫まじかだったが、穫れるかどうか。上下（塩沢）

芦田川・支流に大量の雨水が流入し、特に蛇行しているところでは、水が曲がり切らずに田んぼに土砂とともに流入。収穫は絶望的、復旧には大量の土砂・石の撤去が必要。



濁流でえぐられた護岸石垣（塩沢）

<番屋川に架かる橋が落下>



桐原―蟹原間の番屋川にかかる橋が落下。蟹原からの通学路でもあり、また十八塚に通う道として交通量も多い。収穫シーズンを前に、大変な不便を強いられる。復旧が急がれる。

大きく川が曲がるところで、水圧がかかり、両側の護岸石垣が流され、土が大きくえぐられ、支えを失い落下。



山が崩れ、土砂とともに雨水が運んだ稲束が側溝に堆積。



芦田川の崩落した護岸の説明を受ける田中議員と中村議員、撮影は村田10・14



大水で、流され、橋に詰まった車。その周辺で水があふれ、道路が陥没、床下浸水も出た。（美上下・中尾）

<山の斜面が崩落>



一昨年台風で崩れ、修復した場所がまた崩れた。（姥ヶ懐）



正明寺から古町へ抜ける道、右斜面が崩落。↑せつかく遊休農地を復田したのに、土砂で覆われてしまった田。↓



「水が噴き出す位置にあるため表層土が流れ落ちた」という大量の土砂に「何とか片付けてもらいたい」と語っていた。（大深山）



道路の法面が崩れ、大型車が入ると危険、早く対策をとる畜舎の主人。山を背負い、低い位置にある集落全体に避難が呼びかけられた。（蟹窪）



完全に泥と石に覆われ、田の面影もない。（古町）



水路の両側がえぐられ、濁流となつて流れた跡。水路も壊されている。（塩沢）

古町で芦田川が大きく蛇行しているところ。堤防が壊れ、泥流が田と住宅を襲い、床上・床下浸水が多数出た。手前に板を置き、土砂の流入を防ぐために土嚢で土留めしている。泥水は床上50cmほどにもなり、水に浸った畳・ふすま・生活用品などの後片付けに大勢のボランティアさんが駆けつけていらした。「本当にありがたい」と家主さん。「これからこの家は使えないから解体しなくてはいいかないけど、どれほどお金がかかるのか？」災害ごみは「旧千草保育園に搬入して」と町は呼びかけている。

一日も早い復旧を！